

02 目次・新年のご挨拶

04 特集「龍神そば―人も作物も育ち続ける地域へ―」

08 トップニュース

償却資産の申告について／第25回市民駅伝大会・第38回子どもクラブ駅伝大会の参加者を募集します ほか

12 情報ボックス

風しんワクチン接種緊急助成事業を行います／特別陳列「新収蔵品展」を開催します ほか

16 相談日程等

18 みんなの広場

22 みんなの彩時記

龍神の元気・魅力を届けられるように／ぼぼらde10周年&銀座ミュージックストリート ほか



今月の表紙写真

今月の表紙は、そばを食べている（左から）小川創大君、中畑侑莉君、小川葉ちゃんを撮影しました。みんな「そばが大好き」とうれしそうでした。

紙面で使用するマーク等の説明

回…日付・期間	冠…定員
時…時間	料…料金・費用
休…休館日	持…持ち物
場…場所	申…申込み・申請方法
集…集合	問…問合せ
内…内容	[消印]…消印有効
対…対象・参加資格等	[先着]…先着順

◇㊦マークには、振替休日等も含まれます。
 ◇料金や申込み方法の記載のないものは、不要です。
 ◇市役所の開庁時間（申込み・問合せ等の受付を含む。）は、㊦を除く㊨～㊩の8時30分～17時15分です。毎週㊦は、市民課・保険課・税務課の一部窓口を19時まで延長しています。
 ※今年度の年末年始の開庁は、一部の業務を除き12月29日㊨～1月3日㊩です。



田辺市長 真砂 充敏

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、令和3年の初春を晴れやかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、平素は市政の各般にわたりまして、深いご理解とご協力を賜っておりますことに厚くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、人類史にも刻まれるであろう程の出来事で、今を生きる私たちが、これまで経験したことのないほどの影響と混乱を及ぼしています。

そのような中でも、多くの人々を惹きつける熊野古道をはじめとする地域の魅力は何ら色褪せていません。い

ゆる「ウイズコロナ」から「アフターコロナ」へと移り変わったとき、本市には、再び、国内をはじめ世界各地から多くの来訪者がやって来ることでしょう。

新型コロナウイルスの影響によって都市部での「密」な暮らしに疑問を持つ方、また、アウトドアやキャンプといった自然志向な趣味に興味を持つ方が多くなっているようにも感じています。こうした人々を迎え入れる魅力ある地域資源が、私たちのまちには数多く存在しています。

人々の来訪は、今年も難しい局面があるかもしれませんが、前を向いて歩

んでいきたいと存じます。

引き続き、市民の皆様のご感染拡大防止に向けたご協力と助け合いをいただき、この状況が一刻も早く終息に向かうことを強く願っています。市といたしましても、常に市民の皆様へのきめ細かな対応と対策に努め、必要とあらば躊躇なく新たな対策を講じて、健康で安心して暮らせるよう全力を傾注してまいります。

今年一年が、田辺市をはじめ我が国にとりまして、希望の年となることを願い、併せて、市民の皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



田辺市議会議員 安達 克典

新年あけましておめでとうございます。初春の清々しい空気の中、皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より市政の発展と議会運営に対し多大なるご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。

一月は「睦月」とも呼び、正月に親戚や家族が集まって親しく過ごす月「睦月（むすびつき）」に由来しているとも言われますが、本年は例年とは異なる親睦の深め方をしている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

いまだに新型コロナウイルスが終息の兆しを見せない中、昨年は、本市に

おきまして、緊急事態宣言による休業要請など、これまでの「当たり前」があらゆる場面で一変することとなりました。市民の皆様にも、経験したことのない状況を何とか乗り越えようとして、一緒に頑張っていただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

そうした中で、昨年8月には市街地活性化施設「Tanabe en+」が、10月には合気道の開祖植芝盛平翁の記念館を併設した新武道館がそれぞれ完成し、世界遺産の玄関口にふさわしい、そして、人々の交流の拠点となる新たな中心市街地の姿が出来上がってまいりました。これらを核に、本市の魅力を発信するとともに、

市民の皆様にとつて誇れるまちとなるよう、市議会といたしましても、議員一丸となって努力を重ねてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、実り多き一年となりますよう、ご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

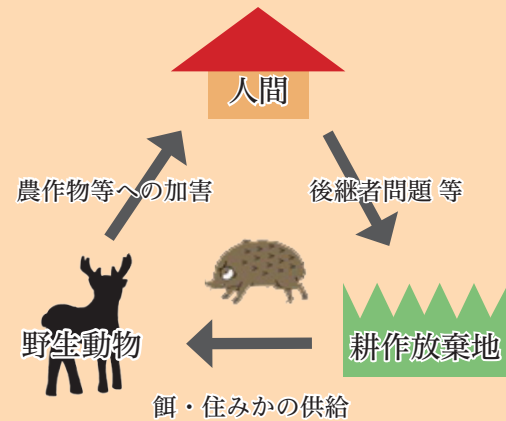
市民の皆様、新年おめでとうございます。公職選挙法により、議員は年賀状、寒中見舞状などの挨拶状（答礼のための自筆によるものは除く）を出すことが禁止されていますので、本紙上をもって年賀のご挨拶に代えさせていただきます。

市議会議員一同

耕作放棄地の問題とは

耕作放棄地とは、『以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を栽培せず、しかもこの数年の間に再び耕作する意思のない土地』のことです。

農地を放置することにより、雑草が生えたり、害虫が発生したりするなどの問題があります。また、シカやイノシシなどの野生動物が耕作放棄地を住みかとしてしまい、人間と野生動物の距離が縮まることで、周囲の農作物被害などを引き起こしています。



田辺市の現状

平成27年の調査では、市内に耕作放棄地が約290万㎡あり、この面積は年々増加しています。主な要因は、農家の高齢化と後継者の不在です。市内の農業就業人口の約53%が65歳以上であり、市内農家の約59%が後継者がいないと回答しています。

市では、地域農業の担い手と農地の利用方法を定めた「人・農地プラン」の作成と実質化に取り組んでおり、農用地の借り手に対する補助金制度など支援を行っています。



そばの花が満開になった古久保さんの田んぼ

そばを選んだ理由
「龍神は有名な温泉地。温泉観光地といえ、温泉と地酒とそばじゃないか」
そば栽培を担当している返町さんは、こう提案したそうです。理事長の後藤さんからも、昔は各家庭でそばを栽培していたという話があり、そばの復活に取り組むことになりました。



耕作放棄地に繁茂する立ち木を伐採する返町さん

なってしまうことを防ぐことができ、環境を守ることにつながっています。

休耕田に咲くそばの花

田んぼを使っていただくようになってから5年目になります。元々は、田んぼ仕事の好きな夫が頑張ってくれていましたが、夫が他界してからは、私が耕作をしていました。息子が二人いますが、二人とも家を離れており、一人で続けていくのも難しいかなと思っていた時にええとこねっとからお声をかけていただきました。

田んぼは、何もしていない状態にするとすぐに荒れてしまいます。何も育てなくても、年に数回は田んぼを耕さないといけないと考えていました。ご先祖様から預かる田んぼを無駄にせず、町おこしに使っていただけることに本当に感謝しています。

また、そばの花が咲く頃には、写真愛好家の方たちも来てくれて一時のにぎわいを見させてくれます。私も、そばの花や耕作風景を写真に撮り、アルバムを作って楽しんでいます。ええとこねっとの活動がもっと広がってくれとうれしいです。



田んぼを貸している

古久保 節子さん

特集 龍神そば — 人も作物も育ち続ける地域へ —

皆さん、この田辺市でもそば栽培が行われているのをご存じでしょうか。

今月号は、そば栽培を通じて、地域課題を新たな地域資源に変えようと奮闘されている方々の姿をお伝えします。龍神地域を想う方々の活動から地域づくりに大切なことを考えます。

耕作放棄地を地域資源へ

全国的に耕作放棄地が増加しており、深刻な社会問題の一つになっています。

NPO法人ええとこねっと龍神村（以下、ええとこねっと）は、龍神地域でも耕作放棄地が増えていることに危機感を抱き、平成27年から耕作放棄地を利用したそば栽培に取り組んでいます。

この活動では、耕作ができなくなった方から田畑を借り、ええとこねっとがそばを栽培。できたそばは、龍神地域の新たな特産品となることを目指しています。



NPO法人ええとこねっと龍神村

そりまち かずなお
返町 和直さん



平成 30 年 5 月に旧甲斐ノ川保育所を改装してオープンした「そばと農園 和わく」。写真は令和元年 9 月に行われた龍神そばの花まつりの様子。

龍神温泉街



龍神温泉とそば

龍神そばは、龍神で栽培しているそばの収穫量だけでは、供給量が安定していません。そこで、龍神温泉が日本三美人の湯であることに着目し、「湯の川温泉」の近くの出雲そば粉と、「川中温泉」のある群馬県産の小麦をブレンド。「三美人湯そば」として完成させました。単にそば粉の不足分を補うだけでなく、観光面で龍神温泉との相乗効果を狙っていることです。

地域と共に育てたい

活動当初、そば畑は甲斐ノ川と殿原の2か所3000㎡から始まり、今では7か所2万㎡まで増えました。これは16名義分の田畑に上ります。

一方で、このそば栽培は、そば畑が分散しているため、作業は非効率的です。さらにNPO（非営利）の活動であるため、資金に余裕が少なく、十分な人手や設備が用意できていないとのことでした。状況によつては、新しく田畑を提供いただいても、お断りしなくてはいけないこともあり、歯がゆい思いもされています。

それでも、「自分たちが耕作できなくなった畑を使ってくれて助かったよ」、「そばの花が咲くと、自分の畑に観光客の方が来て、いろいろな話ができてにぎやかになったよ」と、畑の持ち主さんが喜んでくれるので、この活動を続けられたといいます。

「地域の方にも協力していただきながら、これからも活動を続け、いつか龍神そばが地域の方々に誇りに思ってもらえるように頑張りたい」と返町さんは意気込んでいます。

龍神そば街道を夢見て

ええとこねつとの活動は、徐々に地域に認知され始め、平成30年には、保育所だった建物を活用し、龍神そばのお店「そばと農園 和わく」を開店しました。和わくでは、保育所の遊具を残し、花の時期には「龍神そばの花まつり」を開催するなど、地域住民の憩いの場となることを願っています。

また、他にも龍神そばを使用してくれるお店も出てきました。「龍神そばを使うお店を増やし、

一番の魅力は「人」

平成 29 年 12 月から地域おこし協力隊（※）としてええとこねつとで、そば事業に取り組む。令和 2 年 11 月をもって3年の任期を終了。今後もそば事業に関わりながら龍神地域で暮らしていく。



えみ 鶴岡 絵美 さん

龍神に初めて来たときに、最初にお話したのがええとこねつとの後藤さんでした。そのときの印象は「愉快なおじさん」です。後藤さんだけでなく、ここで会う方々が本当に良い人ばかりで、3年間過ごして感じた龍神の一番の魅力です。

これから龍神のために、私自身さらに積極的に行動し、様々なことに関わりを持ち、そして、出会った人とのつながりを大切にしていきたいです。

※人口減少や高齢化等の進行が著しい地方に、地域外の人材（都市住民）を隊員として委嘱し、地域協力活動を行いながら、地域力の強化を図るもの。

地域の原動力に

「自分たちでなんとかしたい」この地域のためにできることはないだろうかと考えて取り組み始

いつか『龍神そば街道』と呼ばれるような地域資源となつて、地域のにぎわいにつながれば」

後藤さんは、こう夢を語ります。ええとこねつとは、そばを通じて、耕作放棄地問題を地域の魅力に変えたいという希望を持っています。

「自分たちでなんとかしたい」

この地域のためにできることはないだろうかと考えて取り組み始

～龍神そばができるまで～



- ①耕作放棄地の草刈・開墾
- ②種まき
- ③そばの花
- ④収穫
- ⑤選別・乾燥
- ⑥そばの実（この後、製粉工場へ出荷し、そば粉へ）
- ⑦龍神そばとして完成！

めたそば栽培。その活動は少しずつ地域の中に広がっています。人口減少が進む中で、地域づくりをしていくことは大変ですが、今この地域に住む方々の協力なくして地域づくりはできません。後藤さんは「これからもいろいろなことに取り組んでいきたい。今はこれらの活動が私の生きがい。可能な限り続けていきたいです」と笑顔で話してくれました。

地域おこし協力隊として神奈川県から来ていた鶴岡さんは、退任後もこの地域に残り、そば事業に関わります。

地域を想う皆さんの気持ち、人を惹きつけ、人を動かす大きな原動力となっているのかもしれない。



NPO 法人ええとこねつと龍神村
のぼる 後藤 昇 さん（左） まさかず 竹内 雅一 さん